

令和4年度第2回倉敷市図書館協議会議事録（要旨）

開催日時 令和5年2月1日（水）14時00分～15時30分

開催場所 倉敷市立美術館 第2会議室

協議事項 中央図書館を核とした複合施設棟のコンセプト等について

出席者 委員： 宇多川委員、木村委員、玄馬委員、佐藤委員、武田委員、津田委員、
中川委員、中村委員、山邊委員（9名）

事務局： 井上教育長、三宅生涯学習部長、梶田中央図書館長、長野中央図書館課長主幹、小川中央図書館課長主幹、奥田中央図書館長補佐、姫井中央図書館主幹、原田水島図書館長、藤田児島図書館長、児玉玉島図書館長、石井真備図書館長、香西中央図書館主任、田中中央図書館主任
(13名)

欠席者 藤井委員

傍聴者 5人

報道関係 2社

議事録（要旨）

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 議題「中央図書館を核とした複合施設棟のコンセプト等について」

〈事務局〉（説明）

〈委員長〉 10年ほど前に、全国各地の図書館を見て回りましたが、その頃すでに関東方面では、複合的な図書館ができていました。今回、倉敷も施設が新しくなるということで、みなさんの意見を聞いて、素晴らしいものを造っていききたいということで、皆さんの意見を伺っていききたいと思います。

〈委員〉 一つ疑問というか、質問なのですが、構想は前回の協議会で話が出たわけなんです。私は昨年12月のワークショップに参加させていただきました。それぞれの班に分かれて、ファシリテーターがいて、いろんな意見を出し合いました。図

書館に関心のある方がたくさん参加されていました。画期的なアイデアも色々出されていて、付箋に書いて貼り付けて、各班でボードに貼ったものをお互い見合っってチョイスするということをしました。今日は、ファシリテーターが意見をまとめたものを出して、それについて討議するのかと思っていました。この図書館協議会を、ワークショップと同じような形でやられようとしている気がしますが、私は、図書館協議会の位置づけとしては、もう少し図書館と直結したものだと思いますので、進め方に若干疑問を持ちます。先ほどのパワーポイントの説明にもありましたが、いろいろな意見を聞くということで、事業者とか、市議会とか、それぞれ同じように出ていましたが、位置づけとしては違うのではないのでしょうか。

せっかく12月にワークショップがあつて、一か月間はあつたのですから、出た意見を出していただきたいし、是非とも紹介していただいて、出ていない委員もいらっしゃると思うので、それを聞かせてもらいたいです。

〈事務局〉 ワークショップでは市民の皆様のご意見をお伺いしましたが、図書館協議会として、教育委員会が示した案についてどう思われるかということをお伺いしたい。委員さんも、それぞれのお立場で意見をいただきたいと思います。

12月のワークショップについてですが、そろそろまとまってきております。まだ公表はしておりませんが、いくつか紹介させていただきたいと思います。

12月には3回ワークショップを実施し、すべて公募で来ていただきました。1回目と2回目は一般の方、3回目は中学生・高校生限定で行いました。進め方としましては、コンセプト案をご説明した上で、5人程度のグループに分かれまして、アイデアを出し合いました。ブレインストーミング方式という付箋に貼っていく方法です。その際は複合棟を利用する市民の方を、高齢者、働く世代、子育て世代、外国人、子ども、その他の6つのカテゴリーに分けて、それぞれに必要な機能や設備というものを考えていただくようにしました。

そこで色々アイデアが出されましたが、例えば、高齢者にとっては、アクセスの良さであるとか、使いやすい検索システム、車椅子でも通れる広い通路といった設備面。働く世代にとっては、レファレンスサービスの充実、朝読書の開催、グループ利用できるスペースなどの設備の要望がございました。子育て

世代にとっては、子どもが音読できたり、動き回ったりできる、騒いでもいいようなスペースの要望や、困り事などが相談し合えるソフト・ハード両面からのスペース。外国人については、異文化交流ができるスペースや自動翻訳機の設置、倉敷市内に多く居住するベトナムや中国に関する資料が欲しい、といったものが見られました。

それから、中学生・高校生にも特化して実施させていただいたのですが、ここはちょっと他の世代とは違っていて、リラックスして勉強や読書ができるスペースや、カフェやコンビニが欲しい、ものづくりや音楽を楽しみたい、防音室がほしい、といったような中高生ならではの、どちらかという図書館に行くというよりも、図書館以外が目当てで来られる施設がほしい、という意見が出たと考えております。

その他、ボランティア活動の窓口や、色々な団体の紹介やマッチングなど、市民活動の拠点としての機能に関するアイデアも出ました。主には、ワークショップでは、必要であると思われる機能や設備について、ハード・ソフト両面から考えていただきました。

先程のコンセプトとして、建物全体が図書館になるというようなことを今回考えておりますので、コンセプトそのものについてもご意見いただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひします。

〈委員〉 今紹介して下さった内容で、今日初めて聞かれた方もおられると思いますが、建設的な意見がたくさん出ていていました。ワークショップの進め方で、意見を出しあって付箋に書いて貼るのですが、本当は出た付箋を見ながら、もう一度そこでもっと論議をして、これはぜひ伸ばしていこうとか取捨選択もして、ある程度方向を出していくような形にした方がよかったような気がしました。それぞれ、いろんな意見が出っぱなしになってしまう可能性があります。

ファシリテーターさんたちが、まとめてくださるとの事ですが、会場でもう少し煮詰めてほしかったです。やはり、今日のこの会議では、ある程度それを出しておいてほしかったという気がしています。それを活かしていこうということでもまとめて下さっていると思うので、その点についてはいいのですが。

〈委員長〉 それでは、委員さんそれぞれが、どういうふうに考えておられるかを少し聞

きたいと思います。

(委員) 大学という立場から、(コンセプト案の)最後の、融合を図りながら相乗効果を図るという方策についての提案をさせていただきます。まず、ワークショップでも指摘がありましたが、ウェブサイトの抜本的な見直しが必要なのだろうな、というふうに思っています。特に、今この資料だと、縦長の建物の一番下が食べる場所、次に図書館が2、3フロアあって、市民活動センターが上に来るような位置づけなのかなと思ったりすると、これだとフロア割ではないと思いますが、フロア割のような印象を与えてしまっていて、例えば図書館を利用した方、市民活動センターを利用した方が、中央図書館の交流スペースだからといって、そのフロアへ行くのだろうかとか色々考えてしまうわけです。

大学の立場からすると、実は、この図書館以外の機能というのは、学生にとっては重要な機能なのかなと思っていて、例えば、中央憩いの家にご高齢の方が来られるということであれば、福祉・医療を目指している学生であれば、何かしらの関わりを持つということも可能なのかなと思います。

労働会館は、就職斡旋とは違うというのは分かるのですが、様々な企業との関係性を理解する就職活動を目指そうとする学生たちにとっては重要ですし、グローバルな視点という意味では、国際交流情報コーナーも必要です。また、最近学生たちは地域に出て様々な活動をしていますので、どういったフィールドがあるのかということを知るためにも、市民活動センターにもアクセスをしていただきたい。

そう考えていくと、やはり図書館が、特定されたフロアにあるのではなく、例えばデパートとかだと片方はすべて〇〇デパートで、反対側の方に様々なブティックがあったりとか、そういう風な設計ができないのかなと思います。例えば、中央憩いの家のあるフロアであれば、医療・福祉に関連した、むしろ健康とかそういう図書があるとか、労働であれば労働に関する図書、国際交流であれば英語の図書、読み物として英語多読などもあったりしますので、そういったものをそこに、もしくは日本語を学べる図書があったりとか。図書館として、本の管理や貸し借りはどこでするのかということもありますが、ただ、そこはご提案になった自動貸出機とかで解決できるのは思っております。

また、交流スペースという考え方よりは、図書館の関係でそのフロアに行ってみたら、そういう情報も得られたとかといった関係性も得られるといいのかなと思います。そういった中で、ウェブサイトという所も、もう少し図書館のウェブサイトというより、この複合施設全体を見渡せるようなものになると、ものすごく機能的にアクセスしやすくなるのかなと思いました。

〈事務局〉 補足ですが、29ページの表は今委員さんが言われたようなイメージで書いております。フロアごとでいろんな機能を分けて、3階は貸館、2階は中央図書館というようにあったのが今までの考え方だとすると、そうではなくて、どこでも本が読めるようにしようというのが右の図です。交流スペースを真ん中に書いているのでわかりにくいと思いますが、今委員さんがおっしゃった、正にそういったことを目指して書いてある図になります。

〈委員〉 前回の協議会で、さっき説明があったアンケートの結果は詳細に伝えていただきました。七割くらいの方が一度も図書館を年に一度も利用していないというところが、ものすごく注目されまして、そこを改革するのはもちろんの事ですが、その時の協議会で、じゃあ実際に頻繁に図書館を使っている人の意見をどうやって吸い取るかということをお聞きしてあげてくださったと思いますが、それがその後、今日までに反映されてますでしょうか。

〈事務局〉 直接的な答えになるか分かりませんが、(26ページの図を示して) 図書館の機能を現在と未来という書き方をしております。現在の中央図書館の機能を大切にしながら、資料の収集、レファレンス、地域資料の収集、ボランティアとの協働という現在の図書館の機能というものは、もちろん大事にしながら、それにプラスした図書館を作りたいということです。直接的に今来られている方のご意見をお聞きしているかということにはならないかもしれませんが、今の機能にプラスして何かを作っていくという、そういう考えをコンセプト案に示させていただいたということになります。

〈委員〉 今利用している人たちの中でもいろんな意見があるし、今の図書館に今考えなきゃいけない事とか、そういうことはそれぞれの部門の所でたくさんあると思います。コンセプトにある、「皆でつくる複合施設棟」とある中に、市民からの意見というのがあると思いますが、それをどのように、例えばアンケートも

一つだったし、ワークショップも一つだったと思いますけれども、実際に頻繁に使っている市民からの意見はどのように吸い取られるのでしょうか。

〈事務局〉 そのご意見をお聞かせいただきたいと思います。

〈委員〉 図書館が意見をこれから準備していくわけですから、図書館の方がどのような形でそういう機会をつくられるのでしょうか。

〈委員長〉 それは例えば、意見箱のような形で、日常よく利用されている方が、ちょっと書いて入れるようなものを作るのはどうなののでしょうか。

〈委員〉 それは、図書館がどのように考えているかというのを、前回の協議会で出たと思うのですが。

〈事務局〉 それは考えてくださいというご意見ですね。

〈委員長〉 よく利用される方の意見が、どのように表に出てくるのか、吸い上げられるのかという質問です。

〈事務局〉 今使っている方に特化して意見を聞くということは、今の所まだできていません。

〈委員長〉 その後の方向は、どうなののでしょうか。

〈事務局〉 それについては、今この場ではっきりとしたお答えはできませんので、また次回の協議会のときにお答えするようにいたします。

〈委員〉 倉敷図書館の、この移転に伴って、素敵な図書館になればいいなと思って、私も県内の図書館を休日に巡ってみました。行ったところは、津山・奈義・瀬戸内・玉野・新見・高梁あたりに行きました。それで、図書館を利用している方の、これはいいなという姿があったのですが、幼児から高齢者までが、それぞれのスペースで、本当に静かに集中して学んでいる姿が本当に素敵だなと思いました。そういった姿は、こうしましょう、ああしましょうではなくて、雰囲気づくりとか仕掛けがあって、自然とそういうふうに皆が利用できるような秘密が隠されているなと思いました。

幼児のコーナーでは、靴を脱いで、お母さんがお子さんを抱っこして触れ合いながら読んでいる姿とか、学生は Wi-Fi 機能を使って一生懸命勉強している姿とか、高齢者は、ゆったりした応接室のイスのようなところで座られて、趣味の本を読まれたり、新聞を読まれたりしている姿、皆が学んでいる姿が見ら

れて素敵だなと感じました。コンセプトにも書かれてあるような、そういう姿だなと思いました。県内でも、津山とか新見とか高梁とか瀬戸内とか、すごく参考にさせていただけるところがあるなと思って、既にできているところの良いところを取り入れさせていただくのもいいのかなと思いました。

あと全体的に、この頃の傾向としては、明かりや空間を使って開放的で威圧感がないということとか、新見とかは、音楽施設のようなホールのようながありますが、図書館へ行く通りにそういうのがあって、自然につながっているという感じで、図書館の運営は図書館の運営としてやっていかないといけないから、あまりいろいろになるのも難しい部分もあるのかなと思いつつも、そこを利用する人が自然に足が向くような仕組みづくりとか場づくりとか、そういうものもいいかなと思いました。

それと、ユニバーサルデザインで、しないといけないことが一目で視覚的に分かる工夫が色々されていました。それから、飲食スペースはどんなのかと思っていたら、分かりやすい表示で、蓋つきのものはOK、カップのようなものはバツという印があって、本を破損したり汚したりした場合は弁償をお願いしますということを、前もって短い言葉で伝えているということで、ちょっとトラブルも起こりにくくなっているなと思いました。みんなが静かに決まりを守って、一生懸命学んでいる姿を見て良いと思ったので、ぜひ倉敷図書館も素敵な場になったらいいと感じました。

小学生の目指す児童像の中に、「ふるさとを愛する子どもにする」という児童像があるのですが、倉敷の図書館では地域の文献というものをすごく大切に守ってくださっているのも、まず教師もそれを勉強しないとけないし、子どももそれを通して勉強できるもといった、倉敷の歴史が分かるものもしっかり大切にしていっていただけたら学校としてありがたいなと感じています。

(委員) 倉敷でも、先程おっしゃったようなサービスをしています。コーナーもあります。地区の図書館で分かりやすいスペースもありますし、中央図書館はちょっと隠れてしまっているのも、うまく機能していない部分もあるかもしれませんが、そういうサービスをしていないわけではありません。複合施設もいいとは思いますが、先程紹介していただいた、全国・県内のもあり、すべてを知っ

ているわけではないのですが、先程の複合施設というのは、新しく図書館を造るときに、いろいろなこういう機能を集めてこういう図書館にしたいというところから出発されている所が多かったかなと思います。

倉敷市のこの施設が悪いという意味ではないですが、元々が施設の老朽化から集まっている感も若干感じられて、それが本当にそれぞれ補い合うというか、そこに集う人達が色々な体験ができていいなと思うものが、使いようによっては確かにあるなと思うのですが、スペースというか、紹介されたものは、倉敷の場合は、土地が決まっています、施設も決まっています、必ずスペースをとらないといけないものばかりではないと思います。機能が移ればいいものもあるのかなと思います。会議室とかも共同で使うので、それだけ絶対今のスペースを確保しないといけないことはないと思いますが、全体で枠が決まっています入るものも決まっています、どういう風にうまく納まるのか納まらないのか、その辺が心配ということ、本当に施設全体が図書館となるオープンな施設を目指されているということなので、期待しています。

〈委員〉 せつかくの複合施設なので、図書館と関連付けた有機的な活動ができるのがいいなというのは同じように感銘を受けました。今、小・中学校現場では、タブレットが導入されて、デジタル教科書もうちの学校では全員に配布されていて、子どもはいつでも見られる環境なのですが、それでもデジタル教科書ができれば紙がもういらなかと、やはりあった方がいいという子が半分を超えるくらいいます。Wi-Fi環境を整えるというところでいくと、ヒントになることがあるのかなと思ったりしています。Wi-Fiで検索していくけれども、実はここにこんなものが隠されているのですよ、というのがあると、中学生・小学生は興味を引くのかなと思ったりします。

旭山動物園が、動物を上からでなく下から見せたことで、「なんだこれは面白い」と動物の魅力が増したということがあったので、そんなアイデアがここでひねり出せたら、委員としての責任が果たせるのにと思っているのですが。

結局は、図書館としては、本の魅力なり本の有用性を皆さんに紹介して、それが市民の方に浸透していくのが一番の目的だと思うので、その所は今ここで考えている私たちは、そこは絶対はずさないよということには自覚しました。

〈委員長〉 見る角度、見える角度がもし分かったら、ぜひ中央図書館に連絡してください。

〈委員〉 私は保育園関係者なので、子どもを見ている立場としての意見しか言えないのですが、皆さんが話し合っている大人目線とは違って、初めて利用する保育園・幼稚園の頃に出会ったことが、本を好きになったり、図書館に親しみを持つたりすると思います。他の委員の意見も聞きながら、本当に心地いい空間づくりや、私たちも、子どもたちに対する環境づくりを一番に、子どもの主体的な活動のために色々考えているので、四季を感じるとか、今希薄になっている年中行事とか、そういったものを大切にしながら、家ではない家庭では補えないもの、たくさんの蔵書のある図書館の中で、心地いい空間の中でぜひ体験して、ここで過ごしたことが子どもの記憶としては残らないかもしれませんが、あそこに行ったら楽しかったとか。

年長児はいいんですが、本当に小さいお子さんは、保護者との触れ合いだったりとか、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、たくさんの方、あとは地域のご高齢の方、地域でなくてもボランティア等たくさんの方と自然に触れ合えるような、そのためにどういった空間が必要か。

先程のわかりやすい説明で、美術館とか行くと、小さなもので教えてもらったりするのですが、最初の出会いが大事になるようなところで、いろんなところと交流できる場所というところの図書館があると嬉しいなど、保育園からすると、そういった図書館に行ってみたいなという希望があります。

〈委員〉 複合施設ということですので、各施設がどのように融合されるのかなという期待感の方が大きくて、委員でなく、ただ一般市民として、ここにいるような申し訳ない気持ちがあるのですが、その融合させる方策というか、何か案というのがあるのですか。

〈事務局〉 まさに融合について考えている所です。今各施設が別々にありますので、利用される方も、憩いの家でしたら高齢の方、市民活動センターですとボランティアの方。労働会館というのは貸スペースがほとんどでして会社の方がミーティングをしたりとか、そういったスペース。国際交流情報機能というのは、今日本語教室をやっているということです。

一つの建物が中央図書館で、何階建てになるかは決まっていますが、上から下までこれは図書館です、ということになったとき、例えば、日本語教室をしている横で本の貸し出しができれば、外国人の方が日本語を学びに来て、「ちょっとこんなところにベトナムの関係の本もあるじゃないか、手に取ってみよう」みたいな、そういうイメージを全体的に持たせられたらいいのかなと思っています。

今、日本語教室は、隣の美術館でやっているのですが、隣にあっても外国人の方が図書館に寄ってくださるということは全然無いのです。日本語教室をやっているところが見えれば、日本語がおぼつかなくても、外国人に何か本を手にとってもらえたりとか、逆に中学生や小学生が、外国人の方と交流するようなイベントをしたりとか、そんなイメージのことが全体的にできたらというのが、この図のイメージです。

こんな事もやってみたらいいのではないかとというのがあれば、アイデアを出していただければ、そういったことも盛り込んでいきたいと考えています。

〈委員長〉 それならこんなのもいいのでは、あるいはこんなものあるのではというのを、ぜひ聞かせていただきたい。

〈委員〉 私たちはボランティアのグループで、中央図書館ができて以来、文庫交流会というのは続いておりまして、当初から今までずっといるメンバーはいないのですが、途中から入ってきた人たちでも先輩たちがしてきてくださったことをなるべく続けて、いつも司書さんが例会にも参加してくださっていましたし、イベントによっては司書さんと一緒にすることができていました。先日のお話会で、それぞれ紙芝居、絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、詩の朗読もやりましたけれども、図書館の中でとてもいいお話会ができました。私たちも一応社会に奉仕するからには、独りよがりにならないように勉強していこうという気持ちで、長い間脈々と細々とやってきました。

それは、いつも司書さんが手助けしてくれました。当然のように思っていましたけれども、近辺の図書館を見ても、そういう所はむしろ少ないと思います。忙しい中でも司書さんが参加してくださり、情報をくださっていました。そういう司書さんとの密接なつながりというのは、やはり今まで長い間積み重ねて

くださってきたことですし、これからも、きっと私たち市民の身近にいて助け
て下さる、信頼できる司書さんがいてくださると信じています。

(委員) 先ほど県内の図書館を色々見て回られたということで、本当に図書館もどん
どん進化していて、やはり先程の紹介にもありましたが、色々変わってきてい
ることは確かです。ただ、現象的に似ていても、中身が違っているところもあ
るのかなと思います。私も高梁のツタヤが入っている図書館を見学しましたが、
パッとみたら飲み物を持ち込んでいい、今の若者だったら飲み物がそばにあっ
て本が読めるというのは、すごく心地よい感じがするだろうと、そういう面は
いいと思いましたが、例えば広辞苑が一番高いところの本棚に置いてあるので
す。広辞苑なんかは、すぐ手に取って調べられる所に置いといてもらわないと
困ります。台に上らないと取れないような所に広辞苑があっても役に立たない
ので、これは問題だと思います。

図書館連絡会というところが、倉敷公民館で漆原宏さんという、ずっと図書
館のいろんな活動を写真で紹介する活動している作家さんの展覧会があって、
そのときにミニトークショーがあって、いくつかの図書館でこんなことをやっ
てますよという紹介がありました。その中で特に印象に残ったのは、瀬戸内市
民図書館の「もみわ」の活動が素晴らしいなと思いました。市民参加で、市民
が図書館の活動に色んな形で声を出すのですが、実行するときに自分たちも手
伝う、これやってくれ、あれやってくれと図書館に丸投げではなく、それプラ
ス自分たちも手伝いますよと。例えば、図書館でイベントがあるときは、準備
の手伝いやと片付けとか、そんなことまでやって、そういう形の市民が参加で
きる運営の仕方というか、それは是非この中に、今も文庫活動とか入っている
と思うのですが、まだまだ色々な形で加われる活動もあるのではないかという
気がしています。

それと、今、中央図書館を核とした複合施設棟という長ったらしい名前で、
これをずっといつまでも、このままでいくわけにいかないと思いますので、結
局中央図書館という名前になるのか、その辺はまだ分かりませんが、やっぱり
それはすっきりさせてほしいなという感じがします。

(委員) 皆様のご意見をお伺いして、少し提案に近い形かもしれませんが、やはり

この絵が気になるのですが、食堂・カフェ・コンビニが一階にあるので、このアンケート結果で、目的も無く寄ればいいといった時に、カフェ寄って帰りましたでは意味がないわけです。さっきからデパートデパートで申し訳ないのですが、レストランが一番上の階にあるのは意味があって、一番上に誘導してから少しずつ降りながら買ってもらおうということで、利便性のいいものを下に持ってくるのが果たして得策なのか、というのは考えていただいてもいいのではないかと思います。

やはり、交流となると、その姿が見えるというのが重要で、先程言われていたように、行く途中に何かが見えるというのであれば、例えば交流スペースという言い方がどういう形になるのかわからないですけれども、例えば日本語教室をやっているところが、エスカレータを降りながら見えてくるとか、エレベータに乗っているときに、気になるようなぎやかな活動をしている様子が見えるとか、という「見える化」というのを、しっかり担保していくということも大切なのかなと思っております。

また、倉敷再発見の取り組みが、未来のところにありますけれども、郷土愛のようなものをしっかり育てていくときに、例えば、倉敷市が取り組んでいる日本遺産というもので、綿花を中心とした、となったときに、綿花を実際に触ったことがあるのかというところでいくと、美観地区にある倉敷物語館では触ることができます。実際に触ってみて、その後ろに日本遺産であるとか綿花であるとか、そういう産業農業のような本がそこにある、それが子どもたちの何か新しい気づきにつながるとか、実際のものを触れてみるというのは、子どもたちにも大切な体験なのだろうなと思いますし、再発見ということであると、デニムが有名ですが、でもデニムとジーンズは何が違うのかとか、そういうことをしっかりと子どもたちが体験経験する中でやっていく。

この複合施設というところには、前回の会議でも、やはりこの蔵書をどのように扱うのかというところがありましたが、今後の保存保管という意味合いからすると、かなりの空きスペースというもの、余剰のスペースというものをある程度意識した設計をやっていかないと、今の段階である程度埋まってしまっている、新しい企画をしようとしたときには何かを片付けて移動しないとけ

ないというのであれば、図書館としての機能が果たせなくなるのかなという懸念があります。そういったところは、限られた施設の中でやるのは分かるのですが、そういったところを含めた検討が必要なのかなと思いました。

〈委員〉 もう一つだけ、最後に言わせていただきたいのですが、私は「人権21」という雑誌を発行しているおかやま人権教育センターの理事長を仰せつかっています。「人権21」で図書館問題も何度か特集を組ませてもらいました。今回、守田敏也さんという方の記事が載っていますが、市の色々な施設の統廃合に関する指針というか答申が出ているのですが、その中に民間活力の導入を排除しないというのを選択肢の一つとして入れると、これがどうしても引っかかるのです。民間活力の導入というのは、いわゆる民営化というか、そういう方向になってしまうのだったら、これは譲れない。

この中で守田さんが言ってるのですが、民営化と言ってるが、実は私営化ではないか。例えば、高梁のツタヤとかTRCとか私企業がやるということになると、私企業は利益が出ることが一番の課題となるので、これは活力の導入といっても、市民のためにとって重要なものになるかどうかということが引っかかってくるわけです。

司書の経験を蓄積した司書さんの力と市民とがタイアップしてやっていくのが一番いいのではないか。結局ツタヤ図書館のようなものになってしまうと、今までの司書さんがいなくなってしまうわけですから、それではやっぱり地域に根差した図書館としていかなものかなという気がします。民間活力の導入というのだったら、さっきの瀬戸内市民図書館のように、民間の人たち、市民に参加してもらえばいいので、それこそ民間活力ですよ。そういう形で民間活力を活用していった方がいいのですが、民間の企業に投げるのであれば、その時は改めて図書館協議会を開いていただくか、そこはやっぱりもう一度討議をするべきではないかと思います。

〈委員長〉 それでは、この辺で閉めさせていただきます。子どもさんからお年寄りまで集まって学べる、楽しいそういう場を作っていただきたい、そのためのハード・ソフトというのはいろんな意見があると思います。ワークショップの意見とか、今回の委員さんの意見とか、いろんな意見をどんどん取り入れて作っていただ

きたいと思います。よく使われている方の意見も、どういうふうにしたら取れるのかなということも、ちょっと考えていただけたらいいのではないかなと思います。委員の皆さんどうもありがとうございました。

4 閉会 宇多川副委員長あいさつ

以上の議事録を、令和5年2月1日開催の令和4年度第2回倉敷市図書館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

令和5年3月16日

倉敷市図書館協議会

委員長 玄馬 正雄

